

「現場からの医療刷新についての勉強会」レポート 鈴木寛・文科副大臣を講師に継続開催

「民主党の医療政策はどうなっているのか」

昨年8月の政権交代から半年が過ぎ、昨今の医療現場でこうした声がよく聞かれるようになってきた。そうした疑問を解消し、日本の医療をより良いものにする試みとして、弊社は4月16日、東京・千代田区のホテルで「現場からの医療刷新についての勉強会」を開催した。

レギュラー講師は民主党の鈴木寛・文部科学副大臣。「鳩山政権の医療政策」をテーマに約1時間、熱弁を振った。鈴木氏は3月末に参議院で可決、成立した2010年度予算案で資源配分のシフトがいかほど大胆に図られたかを説明。今後、医療分野の刷新をどう進めていくかの工程についても踏み込んで発言した。

クローズドな会合ならではの本音も飛び出し、具体的な事例や数値に基づいた説明は説得力に富むものだった。会場には病院経営者を中心とする医師をはじめ、医薬品や医療機器のメーカーの幹部などが約20人参加。民主党きっての医療政策通である鈴木氏の話に聞き入った。

勉強会終了後の懇親会では、参加者が鈴木氏をつかまえて意見を交換する場面が続出。医療の現場を担う層にとって、新政権の取り組みへの関心の高さがうかがえた。

弊社では今後も現場と政策立案者をつなぐ催しを開催していく。今回は、5月20日に東京・港区で、鈴木氏を講師に「現場からの教育刷新についての勉強会」を開催する予定だ。



講演は鈴木氏自ら用意したスライドを投影しながら行われた。貴重な話しだった

文科副大臣として10年度予算では大学病院刷新に注力した



懇親会では出席者から鈴木氏に様々な質問が飛んだ。写真左はCSLベ어링経営企画・情報部の岡友二マネジャー



南淵明宏・大和成和病院院長(右)がニプロ国内事業部の杉本準一・販売促進部部长と機材談議が盛り上っていた



開かれた医薬品医療機器総合機構を目指す近藤達也理事長も出席した



突然のハプニング! 医療構想・千葉発起人の一人、増山茂・了徳寺大学教授(左)から埼玉・千葉・茨城に医療機関の新設を求める提言書が急ぎょ手渡された